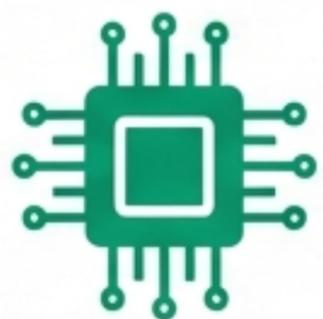


# サナエノミクス第2フェーズの衝撃と構造的摩擦

第3回日本成長戦略会議（2026年3月）の国内外評価とマクロ経済リスク分析



TARGET

**61**  
Technologies



SCALE

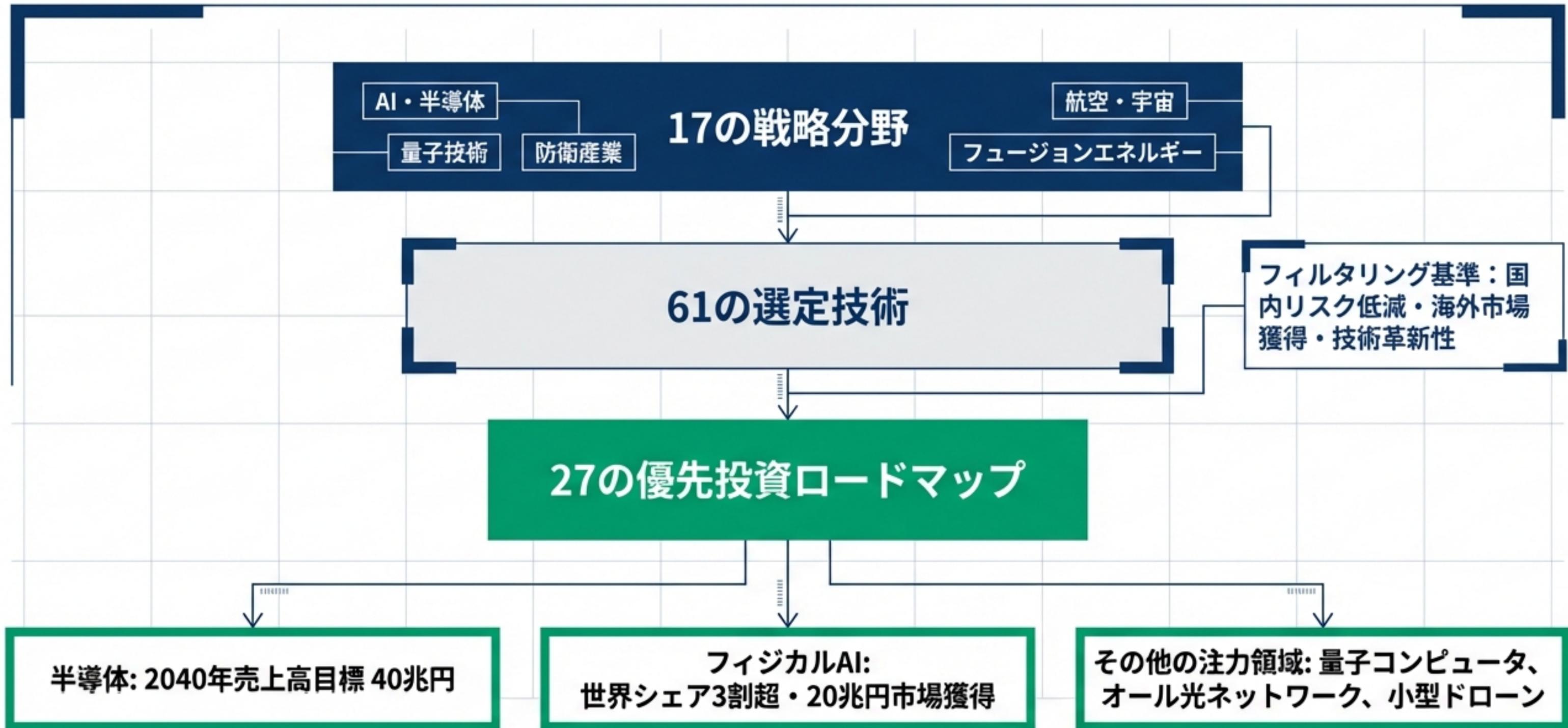
**40** Trillion  
Yen (Semi)



RISK

**203%**  
Debt-to-GDP

# 野心の解像度：17分野から61の「勝ち筋」への絞り込み



# 実行フェーズへの移行：総理が下した3つの具体指示

## 01. 防衛技術の市場化



担当: 赤澤経産相・小泉防衛相

防衛産業への技術シーズの大規模調達の道筋づくり。

## 02. 財政枠組みの再定義



担当: 片山財務相

「危機管理投資」と「成長投資」の**財政別枠管理**の方策検討。

## 03. 定量効果のコミットメント



担当: 城内成長戦略担当相

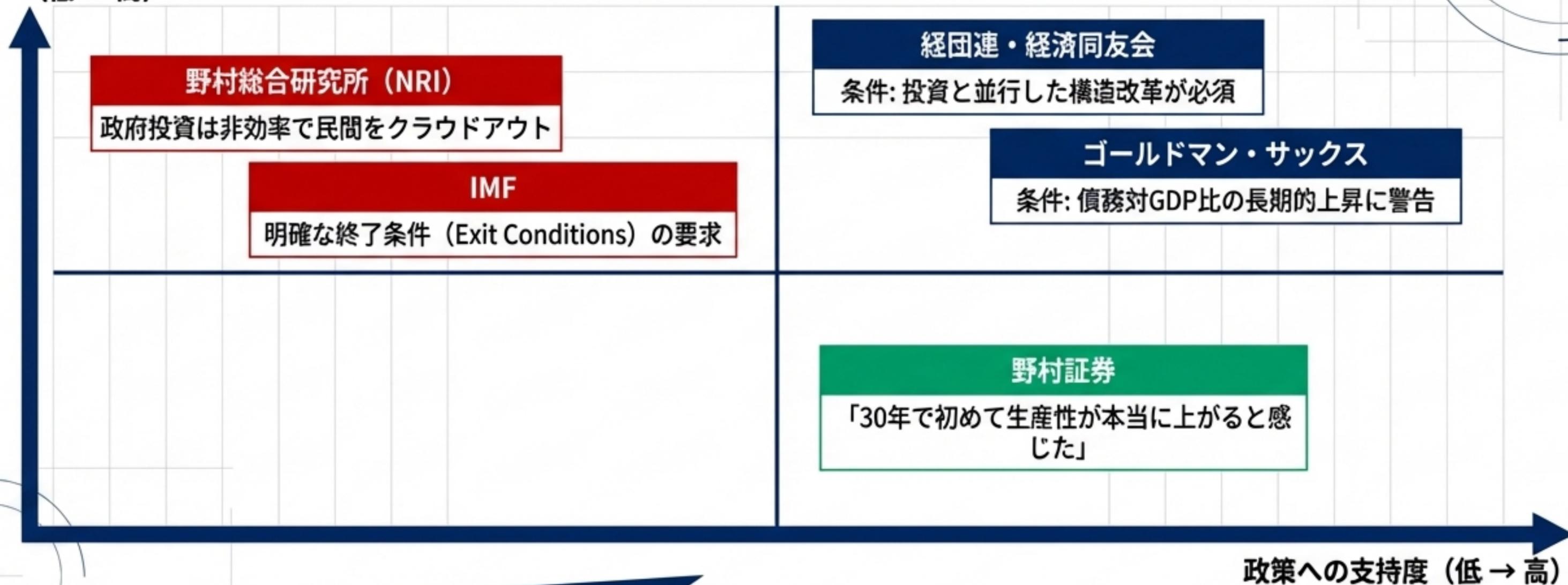
投資額・GDP寄与・税収増・債務残高対GDP比への効果算出と、夏の「骨太方針」への反映。

# サナエノミクスに対する国内外ステークホルダーの 評価スコアカード

	国内経済界	国内シンクタンク	国際機関	外資系・ グローバル金融
技術投資への 姿勢	 <b>強い支持</b> (官民連携強化)	 <b>限定的</b> (分野選定に疑問)	 <b>条件付き</b> (市場の失敗領域に限定)	 <b>非常に楽観的</b> (防衛・AI起爆剤)
財政別枠管理 への見解	 <b>中立的</b>	 <b>強い懸念</b> (債務残高上昇リスク)	 <b>警告レベル</b> (利払い費倍増の危機)	 <b>注視</b> (長期的健全性への懸念)
構造改革の 要求度	 <b>必須</b> (労働市場改革・価格転嫁)	 <b>必須</b> (民間主導への回帰)	 <b>必須</b> (デジタル化・参入障壁撤廃)	 <b>中長期的課題</b>

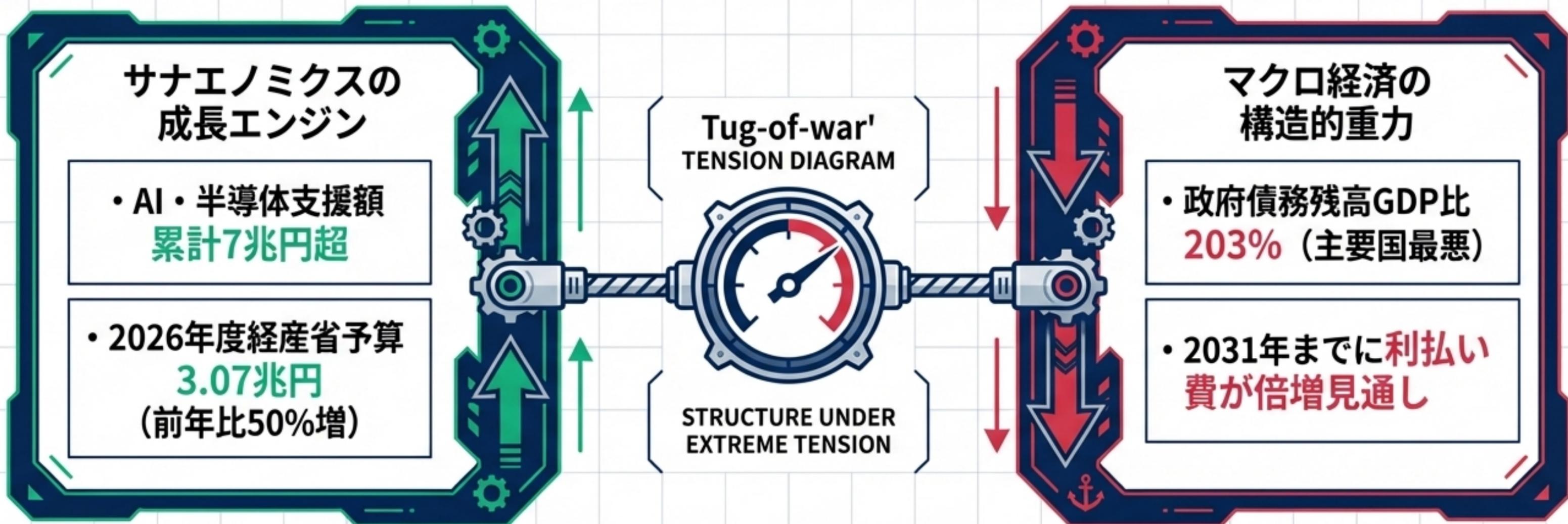
# センチメント・ヒートマップ：支持と財政懸念の二極化

財政・構造的懸念の強さ  
(低 → 高)



インサイト: 投資銀行による「生産性向上への楽観」と、シンクタンク・IMFによる「財政規律への悲観」が完全に交差し、二極化している。

# 財政の重力モデル：IMFが「出口戦略」を強く要求する理由



IMFの勧告（2026年2月17日）：

「産業政策には時限的で明確な終了条件（Exit Conditions）を設け、費用対効果の徹底的な分析を行うべき」

大和総研の試算：

このまま別枠管理で積極財政を進めれば、純債務残高対GDP比が10年間で20～50ポイント上昇するリスク。

# AI・知財戦略：「イノベーション・ファースト」による世界的差別化

## 「促進型」AI基本計画（日本）

- 法的枠組み：罰則規定を持たない推進型立法（2025年5月成立 AI法）
- 投資規模：1兆円超のAI関連投資（ラピダス1,500億円、国内AI開発3,873億円）
- 国際評価：世界経済フォーラム(WEF)が「イノベーション・ファーストの模範」と高く評価。

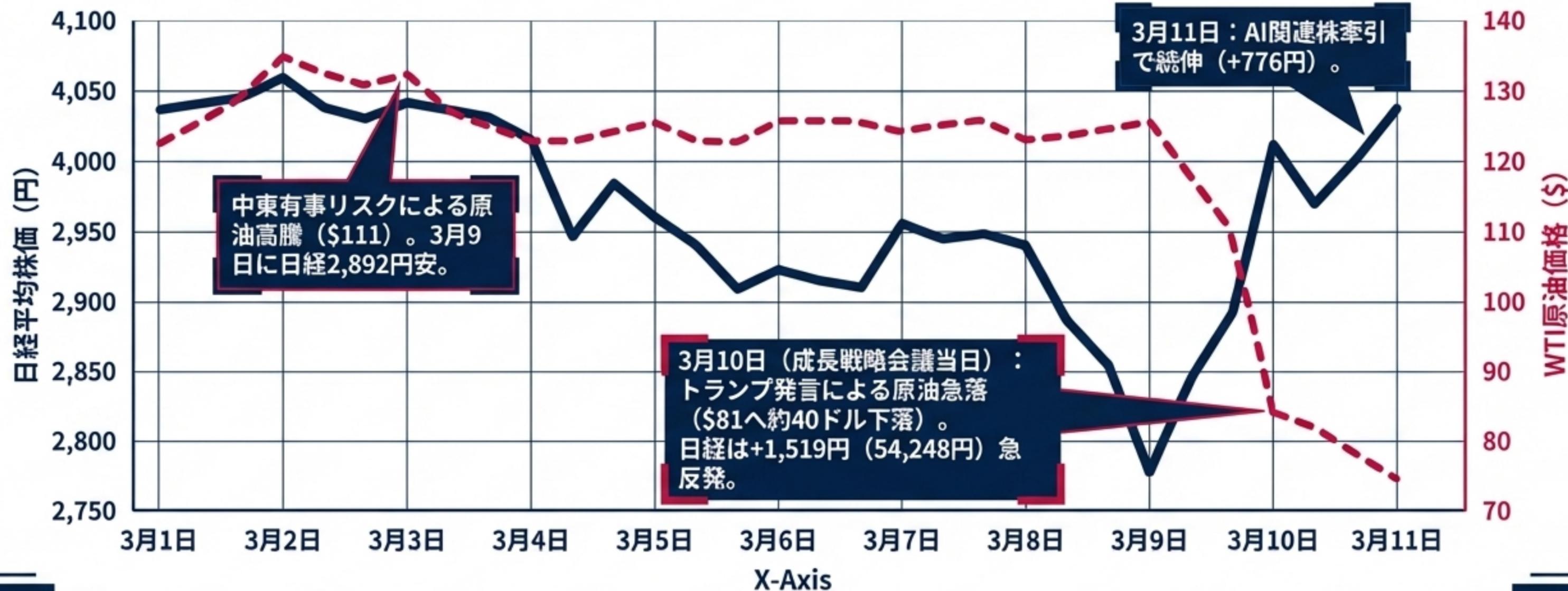
## 「規制型」アプローチ（EU）

- 法的枠組み：EU AI Act（厳格な罰則規定と高度なコンプライアンス要求）

基盤となるIPトランスフォーメーション（知的財産推進計画2025）

法・技術・契約を組み合わせ、生成AI時代の知財エコシステムを構築し、グローバルリーダーシップを狙う。

# 金融市場の現実：株価急反発の真のドライバーは「中東情勢」



分析の結論: 会議当日の株価急反発は、成長戦略会議への期待ではなく、原油価格急落による「有事リスクの剥落」が主因である。政策との直接的連動は限定的。

# 政策基盤のストレステスト：指摘された5つの構造的断層

サナエノミクス  
61技術・野心的数値目標  
(40兆円・3割シェア)

1. 財政持続性：  
「別枠管理」による  
政府債務の悪化リスク  
(IMF/OECD警告)

1. 財政持続性：  
「別枠管理」による  
政府債務の悪化リスク  
(IMF/OECD警告)

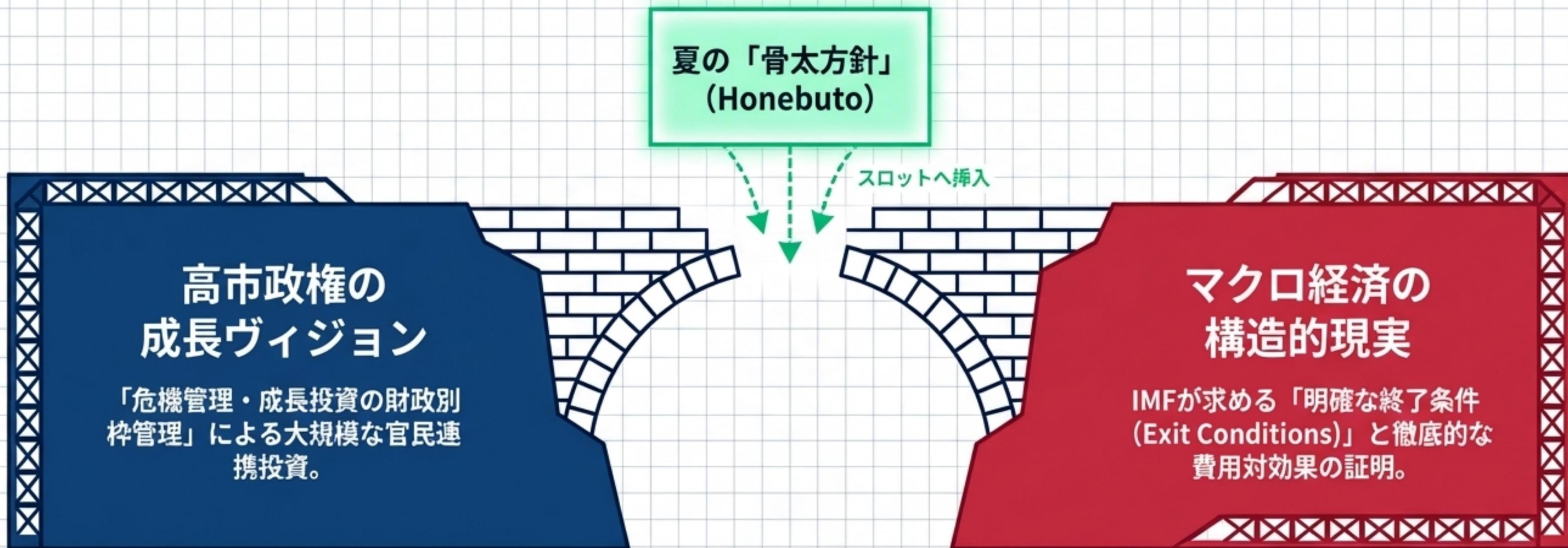
2. 総花的な分野選定：  
予防医療等が欠落し、  
旧来型財政出動が混在  
(第一生命経済研究所)

3. 供給側改革の欠如：  
規制緩和や労働市場の  
流動化が中心にない  
(NRI/日経)

4. 偏ったガバナンス：  
積極財政派主導であり、  
法的根拠の弱い閣議決  
定ベース (日経)

5. 実質賃金の低迷：生産  
性と賃金のギャップ拡大。  
国民生活への波及の遅れ  
(Fair Observer)

# 実行のキャズム（死の谷）：「別枠管理」 vs 「出口戦略」の相克



サナエノミクスは構想から実行へ移行した。野村証券の「生産性向上への確信」が勝つか、NRIの「イノベーション阻害の懸念」が現実となるかは、夏の骨太方針において、この財政拡張と規律の矛盾にどう決着をつけるかに完全に依存している。